

イエスが山を下りて来られると、大勢の群衆がイエスに従った。

すると見よ。ツアラアトに冒された人がみもとに来て、イエスに向かってひれ伏し、「主よ、お心一つで私をきよくすることがおできになります」と言った。

マタイの福音書8章1、2節

山上の説教を語り終えたイエス様は山を降り、大勢の人々の間に身を置かれまし。すると次々と問題を抱えた人々の相談が舞い込み、イエス様はそれらに対応しました。山の上と下という対比に、天から人の

世界に降り人々の間に生きたイエス様の姿が示されています。この世に生きる私たちの日常には様々な問題が起こりますが、今やイエス様はそこに聖霊を遣わし人々に必要な助けを与えてくださっています。

8章にはイエス様の助けを受け取った人々の姿が記されています。私たちがイエ

ス様の助けを受け取るために心掛けることは何でしょうか。ツアラアトに冒された人に注目して考えましょう。

彼は自分がイエス様の助けを受ける資格がないとは考えませんでした。ツアラアトという社会から隔絶される病を得ても、神の恵みから漏れることはないといイエス様に信頼して助けを求めたのです。

また彼は解決をイエス様に委ねました。

きよくなりたいと願いながらもそこに「お心一つで」(2)と言っています。「御心であるならば」ということで、彼は自分の願いよ

りもイエス様の御心になることを求めました。神の思いに自分の心を開いたのです。

結果としてこの人は病を癒やされたわけですが、信じたら願いが叶うという御利益的に理解するのは誤りです。大切なことは、この人がイエス様に信頼して御心を求めたときに、神の助けを受け取ることができたということ。このときにはその結果が病の癒やしであったということです。

イエス様は彼のその後の生き方に一つのことを望みました。それは主を礼拝するということです(4)。神の恵みを受け取った人が礼拝者となることを主は望み、それが「人々への証」(4)となると仰っています。御利益を得て喜ぶのではなく、神の恵みに感謝をささげる者となることが望まれているのです。(泰)

・第63回シオン霊修会

日程 9／19（日）～20（月）

会場 プラザヴェルデ コンベンション沼津

（ＪＲ沼津駅徒歩、沼津シオン目の前）

講師 岩上敬人師（ＪＥＡ総主事、インマ

ヌエル綜合伝道団）

テーマ「キリストのことばを豊かに」

コロナ禍が収まらない中での計画を心配される方もあろうかと思えます。昨年はコロナ禍を受けて中止をし、次回の開催については霊修会実行委員会で検討を続けておりました。

蒲田をはじめいくつかの教会では、コロナ禍で教会に集まることを控えざるを得ない状況もあり霊的に厳しい状況を通っています。そうしたなかで、どうしたら霊修会を行うことができるかを考え、大きな会場、黙食、個室での宿泊などできる限りの感染対策を行うことやオンライン配信を平行して行うこととして今回の計画に至りました。その上で状況が許されない場合は、完全オンラインでの実施と致します。

詳細は別紙にてご案内致します。

主の最善があるようにお祈りに覚えていただくようお願い致します。